

連載



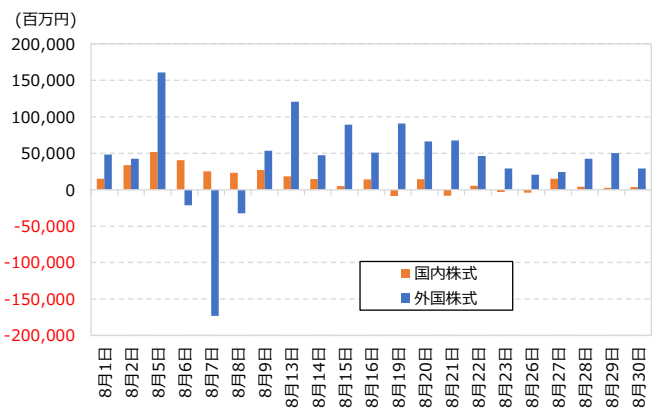
株価乱高下が見られた8月の投信資金動向をまとめました。個人投資家の動向を反映すると言われるETFを除く追加型株式投信の資金流入額は、全体で1兆3,400億円と24年スタートの新しい少額投資非課税制度(新NISA)前と比較すると高水準ながらも、過去最高と同水準に達した7月の1兆9,300億円から大きく減少し、5カ月ぶりの低水準となりました(図表1参照)。投資対象のアセットクラス別に見ると、8月は外国株式型が8,500億円程度の資金流入と7月の1兆5,300億円から急減速しており、新NISAスタート後の8カ月間で最低水準となっています。一方で、国内株式型(日本株ファンド)は8月に2,900億円程度と資金流入額は4カ月ぶりの高水準となっており、外国株式型とは全く異なった動きとなっています。以下のグラフを見ても、8月の資金流入額の減少は、これまで好調だった外国株式型への資金流入の減速でほぼ説明できる状況です。

株価の乱高下がより激しかった日本株ファンドで資金流入が加速した背景には、個人投資家が日本株に対して逆張りの投資行動を取る傾向があるためと考えられます。実際に、日次の投信資金フロー(モーニングスター推計)を集計すると、日本株が急落した8月初旬は資金流入額が

大きく、逆に相場が持ち直した8月中旬以降に資金流出(解約超)となっている日が散見されます(図表2参照)。個別ファンドで見ても、日経平均連動型などインデックスファンドを中心に、逆張り投資家の存在が8月の日本株ファンドの資金フローを支えたと言えるでしょう。一方で、外国株式型の日次資金フローを集計すると、(日本株ファンドと比べて約定日が1日遅れると仮定して)まさに急落を受けた8月7日の資金流出が極めて大きくなっており、インデックスファンドで見てもアクティブファンドで見ても、いずれも8月6日から3日間に資金流出を記録しています。その後の資金フローを見ると、落ち着きを取り戻したと言えますが、外国株式型ファンドの投資家の急落に対する不安が表面化したものと言えます。この3日間における外国株式型からの資金流出額は2,300億円程度となっており、こうした急落時に投資を継続できるようなサポートがまだまだ必要であると思われます。

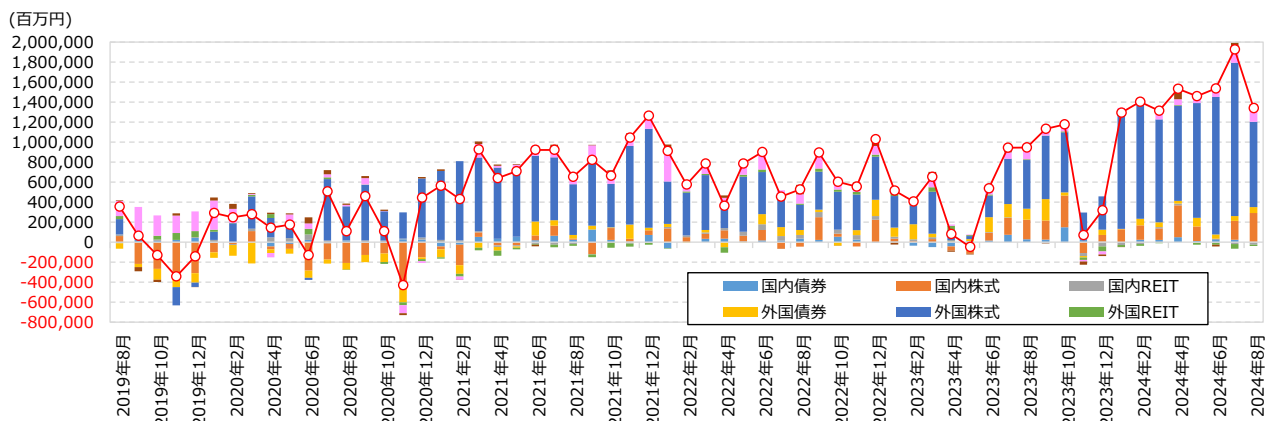
(執筆:BNPパリバ・アセットマネジメント 藤原延介)

図表2 国内株式/外国株式型の推計純設定額の推移
(2024年8月、日次)



出所:Morningstar Directのデータを用いてBNPパリバ・アセットマネジメント(株)が作成

図表1 ETFを除く追加型株式投信の投資対象別 純設定額の推移(過去5年間)



出所:Morningstar Directのデータを用いてBNPパリバ・アセットマネジメント(株)が作成